



Interstage Application Server



アンインストール

Windows

B1WS-0837-01Z0(00)
2010年8月

まえがき

本書の目的

本書は、“Interstage Application Server アンインストールガイド -Windows(R)-”です。Interstageのアンインストール方法について説明しています。

本書は、Interstageのサーバパッケージのアンインストールを行う方を対象に書かれています。

クライアントパッケージのアンインストールについては、クライアントパッケージのアンインストールガイドを参照してください。

前提知識

本書を読む場合、以下の知識が必要です。

- ・ 使用するOSに関する基本的な知識

本書の構成

本書は以下の構成になっています。

[第1章 アンインストール](#)

Interstageのアンインストール手順について説明します。

[付録A Java監視機能のアンインストール](#)

Java監視機能のアンインストール方法について説明します。

商標

- ・ Microsoft、Active Directory、ActiveX、Excel、Internet Explorer、MS-DOS、MSDN、Visual Basic、Visual C++、Visual Studio、Windows、Windows NT、Windows Server、Win32 は、米国およびその他の国における米国Microsoft Corporationの商標または登録商標です。
- ・ Sun、Sun Microsystems、Sunロゴ、SolarisおよびすべてのSolarisに関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- ・ その他の記載されている商標および登録商標については、一般に各社の商標または登録商標です。

輸出許可

本ドキュメントを非居住者に提供する場合には、経済産業大臣の許可が必要となる場合がありますので、ご注意ください。

著作権

Copyright 2010 FUJITSU LIMITED

2010年8月 初版

目次

第1章 アンインストール.....	1
1.1 アンインストール前の作業.....	1
1.2 アンインストール作業.....	3
1.3 アンインストール後の作業.....	5
1.4 アンインストール時のトラブル対処方法.....	7
付録A Java監視機能のアンインストール.....	9

第1章 アンインストール

Interstageのアンインストール手順について説明します。

1.1 アンインストール前の作業

アンインストールを行う前に、以下の作業を行ってください。

- [アプリケーションの停止](#)
- [資源の退避](#)
- [Interstage ディレクトリサービスのアンインストール前作業](#)
- [JTSのアンインストール前作業](#)
- [Interstage Java EEのアンインストール前作業](#)
- [その他](#)

アプリケーションの停止

- すべてのアプリケーションを終了させてください。

資源の退避

- 必要に応じ環境資源を退避してください。Interstageの環境資源の退避方法については、“[運用ガイド\(基本編\)](#)”を参照してください。
- 旧システムの環境資源を移行する場合には、“[移行ガイド](#)”を参照してください。
- 業務構成管理機能の情報を次回のインストール時に引き継ぐ場合は、バックアップコマンドを利用してバックアップしてください。次回インストール後にリストアすることで、情報を引き継ぐことができます。

Interstage ディレクトリサービスのアンインストール前作業

- Interstage ディレクトリサービスのリポジトリが起動されていないか、Interstage管理コンソールを使用し、[システム]>[サービス]>[リポジトリ]の[リポジトリ:状態]画面で確認してください。起動中のリポジトリが存在する場合は、起動中のリポジトリをすべて停止してください。
- すべてのリポジトリが停止していることを確認後、必要に応じてリポジトリのバックアップを行い、すべてのリポジトリを削除してください。リポジトリのバックアップについては、“[ディレクトリサービス運用ガイド](#)”の“[バックアップ・リストア](#)”を参照してください。
- 以下のフォルダ配下に必要なファイルがある場合は、退避してください(以下は“C:¥Interstage”にインストールしていた場合)。
 - C:¥Interstage¥IREP
 - C:¥Interstage¥IREPSDK

JTSのアンインストール前作業

データベース連携サービスのサービスを停止する前に、以下の作業を行ってください。

1. OTSシステムおよびリソース管理プログラムが動作していないことを、otsaliveコマンドを使用して確認します。

[使用例:動作中の場合]

```
> otsalive <RETURN>
-----
OTS system                START-TIME 2007/01/01 10:17:26
OTS Resource  resourcedef1  START-TIME 2007/01/01 11:50:12
OTS Resource  resourcedef2  START-TIME 2007/01/01 12:50:12
-----
```

[使用例:未起動の場合]

```
> otsalive <RETURN>
-----
Nothing
-----
```

2. 動作している場合は、otsstopコマンドでOTSシステムを停止します。
また、otsstoprscコマンドを使用してリソース管理プログラムを停止します。なおisstartコマンドを使用して運用していた場合は、isstopコマンドを使用して停止してください。

```
> otsstop <RETURN>
> otsstoprsc -n resourcedef1 <RETURN>
> otsstoprsc -n resourcedef2 <RETURN>
```

3. データベース連携サービスをインストールしたフォルダ内のユーザ資産を退避または削除します。ダンプファイルを出力した場合は、そのダンプファイルを削除します。
ダンプファイルは以下のフォルダ下に格納されています(以下は“C:¥Interstage”にインストールしていた場合)。

```
C:¥Interstage¥ots¥var
```

4. 不必要なサーバアプリケーションの情報をCORBAサービスから削除します。削除しなければ、データベース連携サービスの再インストール後、OTSシステムの動作環境の設定(otssetupコマンド)、リソース管理プログラムの登録(otssetrscコマンド)、サーバアプリケーション(CORBAアプリケーション)の登録を行う必要はありません。

- 登録したサーバアプリケーションの情報を、OD_impl_instコマンド、OD_or_admコマンドを使用して削除します。
- 登録したリソース管理プログラムの情報を、otssetrscコマンドを使用して削除します。

```
>otssetrsc -d -n resourcedef1 <RETURN>
>otssetrsc -d -n resourcedef2 <RETURN>
```

- OTSシステムの動作環境を、otssetupコマンドを使用して削除します。

```
>otssetup -d <RETURN>
```

Interstage Java EEのアンインストール前作業

- クラスタサービス連携を行っているInterstage Java EEのアンインストール前作業

Java EE共通ディレクトリを共用ディスクに作成し、複数のノードから参照している場合、以下に注意してアンインストールを行ってください。

- 以下の順でアンインストールを行ってください。
 - 作成済みのJava EE共通ディレクトリを参照してJava EEの初期化を行ったノード
 - Java EE共通ディレクトリの資源を作成したノード
- 運用ノードに変更してから、アンインストールを行ってください。

その他

- ターミナルサービスが実行モードの状態の場合は、以下のコマンドを実行して、ターミナルサービスをインストールモードに変更してください。
CHANGE USER /INSTALL
- InterstageとSystemwalker CentricMGR 運用管理サーバまたは、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバを同一サーバ上にインストールしている場合は、Systemwalker Centric Managerのすべての機能を停止してください。停止方法の詳細は、Systemwalker Centric Managerのマニュアルを参照してください。
- ServerMachineMonitorおよびServerMachineMonitorAgentをサービスに登録している場合、isunsetsmmコマンドおよびisunsetsmmaコマンドを使用して削除してください。コマンドの詳細は、“リファレンスマニュアル(コマンド編)”を参照してください。

1.2 アンインストール作業

以下について説明します。

- [Interstageのアンインストール時の注意事項](#)
- [Interstageのアンインストール](#)
- [CORBAサービスのアンインストール時の注意事項](#)
- [Interstage JMXサービスのアンインストール時の注意事項](#)

Interstageのアンインストール時の注意事項

アンインストール時には、以下に注意してください。

- コンピュータの管理者もしくはAdministratorsグループのメンバでアンインストールを行ってください。
- コンピュータ起動直後にアンインストールする場合、サービスが起動処理中のために、アンインストールが失敗することがあります。この場合、時間を置いて再度アンインストールを行ってください。
- アンインストール途中に何らかの原因で強制終了した場合、以後アンインストールを完了することができないことがあります。この場合、インストールCD-ROMドライブの直下(ドライブEの場合、E:\HowToDel.txtになります)の“HowToDel.txt”を参照し、Interstageの資産・情報を手動で削除してください。
- アンインストール中に「キャンセル」ボタンを実行することはできません。
- インストール後、すぐにアンインストールを行った場合、アンインストール画面ではなく、インストール画面が表示される場合があります。この現象はインストール完了後、タスクバーにインストーラのタスクが残った状態のままアンインストールを実行することで発生する可能性があります。この場合、インストール画面を終了し、再度アンインストールを実行してください。
- Interstageのインストールフォルダ配下に暗号化属性が設定されている場合、暗号化を行ったユーザでアンインストールを行ってください。以下に暗号化のユーザの確認方法を示します。
 1. “Interstageのインストールフォルダ¥ODWIN¥uninstall¥setup.exe”を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
 2. [全般]タブの属性にある[詳細設定]をクリックします。[詳細設定]が存在しない場合は暗号化属性は設定されていません。
 3. “内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する”チェックボックスがオンの場合は、[詳細]をクリックし、ユーザ名に表示されるユーザでログインしアンインストールを行ってください。オフの場合は暗号化属性は設定されていません。
- アンインストール直後は、[アプリケーションの追加と削除]メニューのアプリケーション一覧に“Interstage Application Server xxxxx V9.3.0 (xxxxxはエディション名)”の文字が残ったままとなりますが、再度、[アプリケーションの追加と削除]メニューを表示させることにより、アンインストールが行われたことを確認することができます。
- Windows® 2000でのアンインストールを[コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除]から行った場合、アンインストール終了後、アプリケーションの追加と削除画面が応答しなくなる場合があります。応答がなくなった画面は、コンピュータを再起動することで消去できます。

Interstageのアンインストール

以下の方法でアンインストールを行ってください。

1. スタートメニューの[すべてのプログラム (注)] > [Interstage] > [Application Server] > [アンインストール]から“アンインストール”を実行してください。
注) Windows Server® 2003の場合のメニュー名です。オペレーティングシステムによっては名称が異なることがあります。
2. “ファイル削除の確認”画面で、アンインストールを行う場合は[OK]をクリックしてください。アンインストールを中止する場合は[キャンセル]をクリックしてください。



Interstageの各サービスが起動している状態の場合、自動的にサービスを停止し、アンインストールを開始します。

3. アンインストールが完了したら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択して、コンピュータを再起動してください。

CORBAサービスのアンインストール時の注意事項

Interstageに含まれるCORBAサービスは、以下の製品からも使用されます。CORBAサービスが他製品で使用されている場合、Interstageのアンインストールでは削除されません。

- Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバ
- Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ
- Interstage Security Director

Interstageをアンインストールした後、CORBAサービスが残っている場合、以下の手順でアンインストールすることができます。

1. 使用している製品の確認

以下の製品がインストールされているか確認してください。インストールされている場合は、アンインストールしないでください。

- Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバ
- Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ
- Interstage Security Director

なお上記の製品でも使用しなくなった場合、以下の方法でアンインストールしてください。

2. サービスの停止

[コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス]から“OD_start”サービスを停止します。

3. アンインストール

スタートメニューの[すべてのプログラム (注)] > [ObjectDirector]から“ObjectDirector Uninstall”を実行し、アンインストールしてください。

注) Windows Server® 2003の場合のメニュー名です。オペレーティングシステムによっては名称が異なることがあります。

[コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除]メニューで表示されるアプリケーション一覧から“ObjectDirector Server”を選択し、“追加と削除(R)”をクリックしてアンインストールすることもできます。

Interstage JMXサービスのアンインストール時の注意事項

Interstage JMXサービスをアンインストールした場合、以下のレジストリ配下に情報が残っている場合があります。

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥JavaSoft¥Prefs¥com¥fujitsu¥triole¥nf¥event

上記レジストリはシステムの動作には影響ないため、対処は必要ありません。また、上記レジストリに登録された情報は以下の製品でも使用されます。以下の製品がインストールされている場合はレジストリを削除しないようにしてください。

- Systemwalker Resource Coordinator
- ETURNUS SF Storage Cruiser
- Server System Manager

1.3 アンインストール後の作業

アンインストールを行った後に、以下の作業を行ってください。

- 以下のフォルダが残っている場合は、削除してください(以下はC:¥Interstageにインストールしていた場合)。
 - C:¥Interstage¥etc
 - C:¥Interstage¥var
 - C:¥Interstage¥var¥rc
 - C:¥Interstage¥var¥repository (注1)
 - C:¥Interstage¥F3F3Mihs (注2)
 - C:¥Interstage¥jdk5 (注3)(注4)
 - C:¥Interstage¥jre5 (注3)(注4)
 - C:¥Interstage¥jdk14 (注3)(注4)
 - C:¥Interstage¥jre14 (注3)(注4)
 - C:¥Interstage¥ODWIN¥etc
 - C:¥Interstage¥ODWIN¥var
 - C:¥Interstage¥td¥bin
 - C:¥Interstage¥td¥etc
 - C:¥Interstage¥td¥isp
 - C:¥Interstage¥td¥var (注5)
 - C:¥Interstage¥td¥trc
 - C:¥Interstage¥APW
 - C:¥Interstage¥F3FMebms
 - C:¥Interstage¥MessageQueueDirector
 - C:¥Interstage¥Enabler
 - C:¥Interstage¥EJB¥var
 - C:¥Interstage¥EJB¥etc
 - C:¥Interstage¥eswin¥etc

- C:¥Interstage¥eswin¥var
- C:¥Interstage¥Extp¥etc
- C:¥Interstage¥F3FMssosocm
- C:¥Interstage¥F3FMssossoatcsv (注6)
- C:¥Interstage¥F3FMssossoatcag (注6)
- C:¥Interstage¥F3FMssossofsv (注6)
- C:¥Interstage¥F3FMssossoatzag (注6)
- C:¥Interstage¥F3FMsoap¥log
- C:¥Interstage¥F3FMsoap¥etc (注7)
- C:¥Interstage¥F3FMsoap¥classes (注8)
- C:¥Interstage¥GUI¥trcフォルダ
- C:¥Interstage¥IREP
- C:¥Interstage¥IREPSDK
- C:¥Interstage¥J2EE
- C:¥Interstage¥jms
- C:¥Interstage¥jms¥etc
- C:¥Interstage¥jms¥var
- C:¥Interstage¥ots¥etc (注9)
- C:¥Interstage¥ots¥var (注9)

注1) 業務構成管理機能の“リポジトリの格納先”を変更した場合は、そちらを削除してください。また、次回インストール時に、前回の情報を再利用する場合は、本フォルダは削除しないでください。次回インストール時に同じフォルダを指定することで、情報を引き継ぐことができます。

注2) Webサーバ(Interstage HTTP Server)の環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注3) JDK/JREを別フォルダにインストールした場合は、そちらを削除してください。

注4) Interstageをインストールした後に、他のアプリケーションをインストールあるいはアップデートすると、JDKあるいはJREのインストール先にファイルがコピーされる場合があります。

このようなファイルは、Interstageをアンインストールしても、削除されずに残ります。この場合は、アンインストール後に、該当ファイルを削除してください。

例:Interstage(製品)をインストール後に、Windows Media Playerをアップデートすると、以下のフォルダにWMPNS.jarがコピーされます。

- JDKがインストールされていた場合
[JDKインストール先]¥jre¥lib¥applet
- JREがインストールされていた場合
[JREインストール先]¥lib¥applet

注5) Systemwalker CentricMGR 運用管理サーバまたは、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバがインストールされている場合はC:¥Interstage¥td¥var¥IRDBは削除しないでください。

注6) Interstage シングル・サインオンの環境定義ファイルおよびログファイルなどが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注7) サイト証明書、発行局証明書、秘密鍵などが保存されています。必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注8) CORBA/SOAPクライアントゲートウェイのclass/jarファイルを配置している場合は、必要に応じて削除する前にフォルダ配下のファイルを退避してください。

注9) フォルダ配下にファイルまたはフォルダが存在する場合は、それらも含めてすべて削除するようにしてください。

- 旧バージョンのInterstageをアンインストールした場合、上記フォルダ以外に以下のフォルダが残る場合があります。残っている場合、削除してください。

ー C:¥APW

- 本製品は“Microsoft Visual C++ 2005 再頒布可能パッケージ”を使用しています。必要に応じて、再頒布パッケージを削除してください。再頒布パッケージはWindowsの“プログラムの追加と削除”で削除することができます。
- アンインストール後に、Interstageを再インストールする場合は、Interstageの再インストール前にコンピュータを再起動する必要があります。また、再インストールする場合は、前回のインストール資源を削除してからインストールしてください。
- システム環境変数のPATH、CLASSPATHに手動でパスを設定した場合、アンインストールしてもパスが残る場合があります。必要のない場合は、削除してください。
- システム環境変数のCLASSPATHに“.”が残ることがあります。必要に応じて削除してください。
- ターミナルサービスがインストールモードの状態の場合は、以下のコマンドを実行して、ターミナルサービスを実行モードに変更してください。
CHANGE USER /EXECUTE
- omsアカウントを通常使用しておらず不必要な場合は、削除してください。

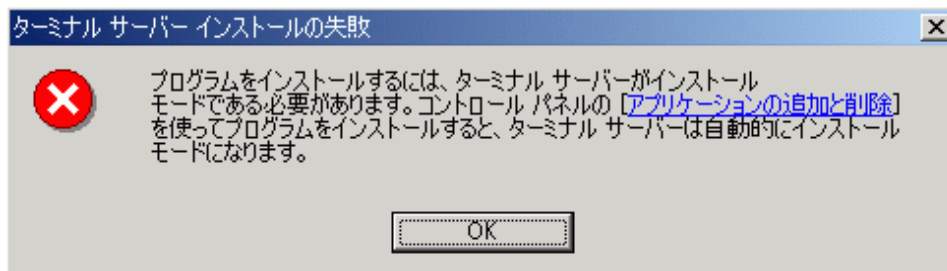
1.4 アンインストール時のトラブル対処方法

アンインストールで不適切な画面が表示された場合の対処

Interstageのアンインストール時に、以下のような画面が表示された場合、ターミナルサービスが実行モードの可能性がります。

- Windows® 2000の場合

以下の画面の[OK]をクリックし、“1.1 アンインストール前の作業”を行った後、Interstageのアンインストールを行ってください。



- Windows Server® 2003の場合

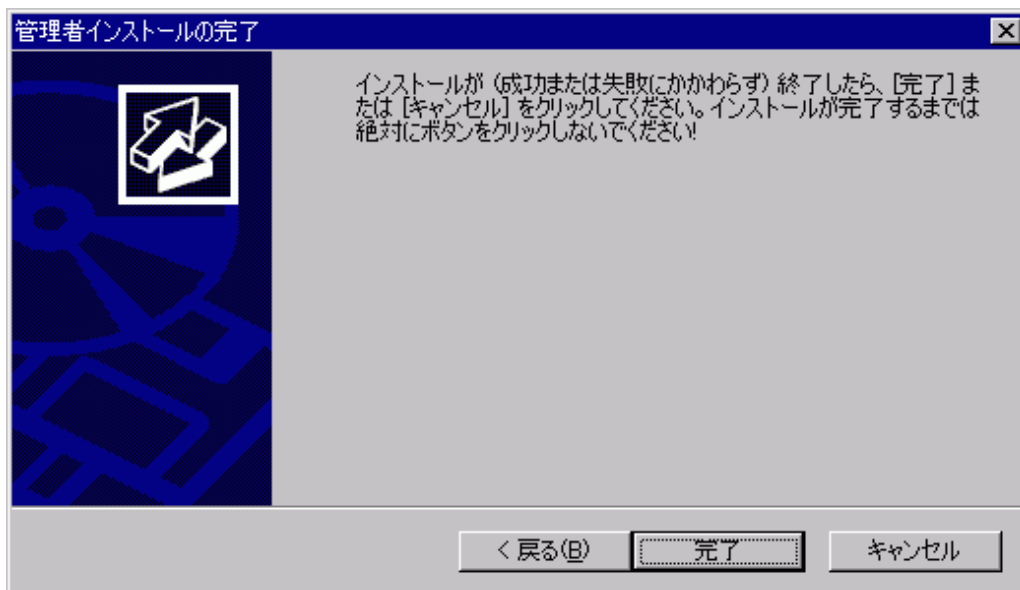
以下に示す手順でInterstageのアンインストールを行ってください。

1. コンピュータの再起動を促す画面が表示されるまでアンインストール作業を行います。

2. 表示されている下記の画面の[次へ]をクリックします。



3. 下記の画面が表示されたら[完了]をクリックします。



4. コンピュータの再起動を促す画面の[完了]をクリックします。

“アンインストール中に問題が発生しました。(OD)”が表示された場合の対処

Interstageのアンインストール中に、“アンインストール中に問題が発生しました。(OD)”が表示された場合、Interstageのインストールフォルダに暗号化属性が設定されている可能性があります。以下に対処方法を示します。

1. “アンインストール作業”の“Interstageのアンインストール時の注意事項”に記載されている暗号化のユーザの確認方法について参照し暗号化属性を設定したユーザでログインします。
2. Interstageのインストールフォルダ¥ODWIN¥uninstall¥setup.exeを実行します。表示に従い、アンインストールを行ってください。
3. Interstageのインストールフォルダ¥ODWINフォルダが残っている場合は削除してください。

付録A Java監視機能のアンインストール

ここではJava監視機能のアンインストール方法を説明します。



アンインストール前にアプリケーションを終了してください

アンインストールを行う前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。

Java監視機能をアンインストールする際に、Java監視機能が利用するディスク、レジストリ等の資源を使用しているとアンインストール作業に失敗する場合があります(例: イベントビューア、エクスプローラ、レジストリエディタ等)。

以下の手順でアンインストールしてください。

1. スタートメニューの[プログラム(注)]>[Interstage]>[Java監視機能]から“アンインストール”を実行してください。
注) OSによっては[すべてのプログラム]と表示される場合もあります。
2. “ファイル削除の確認”画面で、アンインストールを実行する場合は[OK]ボタンをクリックしてください。
アンインストールを中断する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。
3. アンインストール完了後(“InstallShield Wizardの完了”画面で)、[完了]ボタンをクリックして終了してください。



コントロールパネルからのアンインストール実行の方法

1. アンインストールは、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除(注)」の“現在インストールされているプログラム”から「Interstage Java監視機能 V9.2.0」を選びます。
注) OSによっては、「プログラムの追加と削除」あるいは「プログラムと機能」と表示される場合があります。
2. 表示された[削除]ボタンをクリックすることでアンインストールが開始されます。
[削除]ボタンをクリックした後の手順は、スタートメニューから実行した場合と同じです。



アンインストール後の作業

Java監視機能のアンインストールにおいて、インストールフォルダやユーザのホームフォルダの下にサブフォルダやファイルが残る場合があります。残されたフォルダやファイルは不要です。必要に応じて、インストールフォルダやユーザのホームフォルダの下に残った不要なフォルダやファイルを削除してください。

また、利用者の資産が格納されている場合は、アンインストールしてもフォルダが残ります。利用者の資産が不要ならば削除してください。

<インストールフォルダ>%fjconsole